

メッセージ:あの「阪神・淡路大震災」から10年。振り返ると長いようで短い日々でした。「1995年1月17日」は、私の家族にとって、生涯忘れることが出来ない日となりました。

震災当時、私は、ごく普通の高校生でした。中学時代に初めて訪れた神戸の街並みに惹かれ、都会暮らしに憧れていました。姉は当時二十歳、伊丹市に住み、神戸で大学生活を送っていました。

震災直前。両親が、姉の成人式を祝うため、1月14日から17日までの予定で神戸を訪れていました。そして、震災前日の1月16日。「大雪で早く帰らなければならないから」といって、予定より1日早く、電車と高速バスを乗り継いで、夜遅く鳥取へ帰ってきたのです。おみやげのお菓子とたくさんの楽しい思い出話と一緒に、姉とたわいもない話を電話で交わし、それぞれが床につきました。  
(のちに、このバスが、「震災前に鳥取に向かう最終便」となる事を知らずに…)

「1995年1月17日」…あの時、とても寒い朝でした。家の前には数日前から降り積もった雪が厚く積もっていました。雪が降ることを告げる雷鳴轟く中、目覚し時計がいつもより十数分早く鳴りました。「通学用の路線バスに乗り遅れてはいけない」そう思い、目覚めようとした、そのとき。突然下から突き上げるような揺れを感じました。揺れが収まるのを待ってすぐにテレビを付け、身支度を始めました。「午前5時46分 兵庫県南東部を震源とする地震」…その言葉を聞いたとき、制服のボタンにかけていた手が、止まりました。

すぐに姉のところに何度も電話をしたけれども通じず、途方にくれかけたころ、姉から電話がかかってきました。「下宿先は無事だけど、大家さんの家が全壊した」とのこと。ちょうど同じころ、何度も見慣れている場所の、変わり果てた街の姿が次々とテレビに映し出されていました。阪急伊丹駅の駅舎は大きく崩れ、阪神高速の倒壊現場、交通機関の乗り換えや買い物などで訪れていた三宮のビル街や港が崩れていく…。しばらくショックを隠せませんでした。

それから数年後、偶然にも私も神戸で大学生活を過ごすことになりました。辛い時に、復興していく街の姿や、震災に負けないで明るく・そして力強く生きている神戸・兵庫県の人々の姿に、何度勇気付けられたか分かりません。

大学を卒業し、ふるさとである鳥取にUターン就職した今でも、神戸に向かう特急列車や、テレビドラマのテーマ曲と共に映し出される神戸の景色を見ては、当時のことを思い出し、私も頑張っていかなきゃいけないなと感じています。

最後になりましたが、私にとって「第二のふるさと」である神戸の街が、これからも輝き続けられますように…そして、ハード面だけではなく、被災された皆さんの心の中の復興が、進んでいくよう願ってやみません。「がんばろう、KOBE」

名前:里田幸子(さとだゆきこ)

年齢:26

住所:鳥取県倉吉市

# 「1.17メッセージ」応募用紙

阪神淡路大震災（震度7）を中央区で経験し、今こうして、生きているのがいまだに不思議なくらいです。僕は、まだ阪神大震災と聞くと頭の中であのときの状況がよぎります。でも、今でわ、隠岐の島の高校に行きがんばっています。阪神淡路大震災この名前を忘れないでください。

(お名前) 寺澤 仁志

(年 齢) 16

(住 所) 島根県隠岐群隠

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

本日この日目の見学です  
 一つは身が重たいと云い、1.17の日です  
 丁度その年娘の結婚式で6月4日  
 に神戸でとり行われ、12年忘れの思い出  
 年をとり、仲人さん、家もつ子で  
 1年、命と助けられ、今も  
 不自由な生活をして、でも一日早く  
 元の生活がしたいと、祈っています  
 皆様どうか、力を合せてください

ふりがな お名前	新井 美子	年齢	60 才
ご住所	岡山 都道府県 都府 市郡		

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)			
住 所	岡山 都道府県 浅口郡		市・町・村
フリガナ 氏 名	清永 昭三 寛子 (73 歳)	参加総人数 (申込者を含む)	※2人以上の場合に記載して下さい。 人

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

あらゆる困難を乗り越え立派に立ち上られた 神戸の皆様には心より喝采を  
送ります。これからも皆さま心と力を合わせ 力強く歩き続けて下さい。天災の多い  
昨今ですが 皆様を良きお手本として 見習わせていたります。

## 「1.17メッセージ」応募用紙

私は2002年2月から2004年2月まで、仕事の都合で芦屋市に住みました。もちろん、大地震の体験者ではありません。とてもきれいな街でした。震災の当時の様子、実体験をHPで紹介されていますが、信じられません。信じたくありません。被災された方々には冷やかに思えるかもしれませんが、震災がなければ神戸、芦屋に住もうなんて思わなかったと思います。住んでよかったと思います。本当に。仕事が辛くても、この地で何があったかを考えたら、まだまだ甘い自分は。坂道を歩き登りながら考えていた自分は今もまだ発展途上です。

(お名前) 久郷憲之 (くごう のりゆき)

(年齢) 35

(住所) 山口県下松市

「1・17は忘れたい」

私の実家は伊丹市ですが、あの日連絡のとれなくなつた母、弟家族、親せきの安否が分からず心配で一晩中寝られなかつた事を今もはっきりに覚えています。翌日避難所にいることばかり、一週間後水と食料を車につみ込んで伊丹市に行った時はニュースで見るとよりひどい現実には涙かともりませんでした。自分の生かされた町が一瞬にしてあんなになるなんて災害の前にはなんと人間は無力なものかとつくづく痛感しました。あれからもう十年

なんですよ。実家に帰るたび町はほとんど復旧して阪急伊丹駅もあれなくおれ落ちた駅かと思うほどきれいになって替わりました。あの頃同級生に電話しても「大丈夫、なんとかなるか、心配せんでもええよ」と逆にこちらが勇気づけられ、関西人パワーを見せてつけられた思いがこぼれました。あのパワーがあるからこんなには早く復興したのだと思います。1・17は私にとっても忘れられない一日です。

ヤマシキヒコカリン  
山口県光市

藤本 佳代子 著

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

あの日から10年

本日はもう早い10年が経ちました。

神戸の皆様はどうか元気に暮らして

あの日を思い出しますと、朝テレビでつづる何と恐ろしい事か  
ア然とした事か。

まわりの方の被害はあつた、なすすおのほく過ごされた日々を  
思い出される事か。

それには

あれだけのさすしー出来事で

心一つには神戸を復興させたエネルギーは

私たちにはたかろ見えぬ圧倒された。

神戸の皆様はどうか、たげたさすしー

やれやれする精神を見習い、頑張りたいと思います。

皆様をまたまた

やうたたくはいつか事かあると思いたすか。

10年をもう頑張る下さ。

ふりがな お名前	諸隈真弓	年齢	56才
ご住所	山口 都道府県	玖珂	市・郡

阪神・淡路大震災10周年記念

# 「1.17メッセージ」応募用紙

がんばれ！！

ふりがな お名前	埜 拓也	年齢	25才
ご住所	山口 都道府県	岩国 市・郡	